

公の施設目標管理型評価書【指定管理者施設用】

別紙1

施設名	新潟市立乳児院		
管理者名	社会福祉法人愛宕福祉会	指定期間	平成27年4月1日 ~ 平成32年3月31日
担当課	福祉部こども未来課		
所在地	新潟市中央区川岸町1丁目57番地1		
根拠法令	児童福祉法第37条		
設置条例	新潟市乳児院条例		
施設概要	<ul style="list-style-type: none"> ・敷地面積 527.25㎡ ・延床面積 469.80㎡ ・構造・階高 木造 地上2階建 ・施設内容 養育室（共用ラウンジ、寝室、ほふくスペース、キッチン等）、応接・相談室、診察室、調理室、事務室、親子生活訓練室等 ・定員 15名 		

施設設置目的	
<p>保護者の離婚や病気、養育困難、虐待されている乳児、その他不適切な環境により、家庭で育てることが困難な場合に、児童相談所の判断で乳児（保健上、安定した生活環境の確保その他の理由により特に必要のある場合には、幼児を含む。）お預かりし養育し、あわせて退院した者について相談その他の援助を行うことを目的とする施設。</p>	
管理・運営に関する基本理念，方針等	
1	<p>基本理念 社会的養護の理念と原理のもとに、乳幼児の心身及び社会性の健全な発達を促進し、その人格の形成に資する養育を行うとともに、児童相談所や児童福祉施設等の関係機関と密接な連携を図り、乳幼児に適切な支援を行うこと。</p>
2	<p>重点政策</p> <p>(1) 養育・支援 乳幼児の命を守り、その心身及び社会性の健全な発達を促進するため、家庭的な環境で一人ひとりの心に寄り添い、愛着関係を築き信頼関係を育むとともに、発達を支援する環境を整える。</p> <p>(2) 家庭・里親への支援 家庭復帰に向けた親子関係の再構築支援を行い、あるいは、里親への委託に向けた取組を行う。</p> <p>(3) 自立支援計画、記録 子ども一人一人の心身の状況や、生活状況等を正確に把握した、自立支援計画を策定する。</p> <p>(4) 関連機関連携、地域連携及び支援 市、児童相談所、里親会、医療機関及び他施設等の関係機関等との連携・協力体制を構築する。また、地域の里親支援、子育て支援等に取り組むなど、施設のソーシャルワーク機能を活用し、地域の拠点となる取組を行う。</p> <p>(5) 職員の質の向上 定期的に研修に取り組む等、職員一人ひとりの質を向上させ、施設全体の養育・支援の質を向上させる。</p>
2	<p>管理運営方針</p> <p>(1) 当該業務において善良なる管理者の注意をもって実施する義務を負うものとする。</p> <p>(2) 施設の設置目的を踏まえて、施設の一体的な管理によりその効果を最大限発揮させるよう、努力するものとする。</p> <p>(3) 業務全般について計画立案を行い、目標及び業務計画を策定し、その一元的管理方針のもとで、仕様書に示す多岐にわたる業務について適切に進捗管理を行い実施するものとする。</p> <p>(4) 指定管理者は、施設の管理について創意工夫のある企画や効率的な運営等により、保護者の多様なニーズに応え、質の高いサービスの提供を図り、効果的・効率的な管理運営を目指すものとする。</p> <p>(5) 保護者等や地元等からの要望等に対し、公の施設の管理運営の公益性に鑑み、公平・中立を是としてその運営にあたるものとする。</p>

視 点	評価項目	評価指標	実績	評価 ※	評価コメント ※
市 民	サービス満足度	里親研修受講者等へのアンケートを実施し、「満足」が80%以上	5組の里親研修の受け入れを実施。 満足度 100%。	A	視察・研修受け入れ等のアンケートでは、施設環境及び職員対応につき高い評価を得た。
	苦情・要望への対応	原則7日以内に回答	苦情はなし。	A	苦情0件である点を評価する。
財 務	適正な財務管理	財務マニュアルの作成及び収支状況の記録	法人経理規定、経理マニュアルに基づき適切に管理実施	B	指標どおりであった。
	管理経費の削減	中長期的な管理経費削減計画の作成の着手	水光熱費の比較表の作成や人件費率の比較に着手	B	指標どおりであった。
業 務	業務仕様書等に定める事項の遵守	その他業務仕様書等に定める事項の遵守	適切に実施	B	指標どおりであった。
	安心・安全の確保	・避難訓練等の実施(月1回以上) ・業務マニュアルの作成	毎月の避難訓練。他防犯訓練2回。 通報訓練1回。 防災マニュアルの見直し実施。	B	児童相談所等との合同避難訓練は引き続き実施していただきたい。
	個人情報保護の徹底	・施設内研修の実施(1人あたり年1回以上) ・業務マニュアルの作成	施設内研修の実施。 業務マニュアルは見直し実施。	B	ボランティア受入にあっても、個人情報保護を徹底していただきたい。
	関係機関との連携等	会議等への積極的な参加(年12回以上)	市児童相談所とこども未来課との定例会6回 その他児童相談所等関係機関との会議21回等	A	積極的に参加し、関係機関との連携強化に努めた点を評価する。
	地域との交流	地域行事への参加等、地域との交流を6回以上実施	子育て支援センターちゅうりっぷへの来訪 述べ477人 なかなか古町の利用述べ100人 離乳食講座の開催2回 BB講座派遣2回	B	指標どおりであった。
	社会・地域への貢献	再委託する場合の市内事業者への再委託及び物品等の市内事業者からの調達率90%以上	94%	B	指標どおりであった。
	里親支援の実施	里親研修の受け入れ年2回以上	5回	B	指標どおりであった。
人 材	適正な人員配置	条例で定めた基準を上回る職員数の配置	条例で定めた基準を上回る1.3対1以上の職員配置	A	高水準の職員配置を行っている。
	配置職員の資質向上	計画的な研修の実施年10回以上	施設内研修28回 施設外研修40名 法人研修 16名	A	研修を多数実施し、運営の質の向上に努めている。
	ボランティアとの連携	ボランティアの受け入れ人数年間延べ10人以上	97名	A	積極的な受け入れを行っている。
	労働基準の充足	労働関係法令の遵守	遵守	B	適切に実施されている。

【評価基準】

A: 要求水準(評価指標)を達成し、かつその達成度・内容が優れている

B: 要求水準(評価指標)が達成されている

C: 要求水準(評価指標)が達成されていない

※評価について、「A」を付ける場合は「優れている点」を、「C」を付ける場合は「達成されていない点」を、「評価コメント」欄に明記してください。(評価指標が達成されているだけなら「B評価」で、その達成度や内容が優れていな

指定管理者記載欄(アピールしたい事項・未達成項目への改善策等)

昨年度未実施だった里親研修を実施した。研修内容等も工夫をし、終了後のアンケートも良好であった。また、事故防止のためのヒヤリハットでは、1000件を超える件数の収集を行い、検討分析、改善、実行を年間を通して実践している。施設内に設置しているカメラについても、アクシデントの確認に利用するなどして、事故防止の基盤を作った。

中長期的な管理費削減については、水光熱費の比較検討票を作成したり、予算作成の際に人件費率の比較などを行うなどを実施したが、措置児童の人数の増減によるところが大きく、開設2年目としては見通しのつけづらさを感じた。次年度は、定員数と職員数がかかることによることの影響がどのようにでるのかをみながら、管理費削減について見直し、検討をしていきたい。

所 管 課 に よ る 総 合 評 価 (所 見)

定例会等の開催による関係機関との連携や、事故防止のためヒヤリハット事例を分析・共有により、昨年度に引き続き円滑で安全な運営が行われた。また、昨年度実施を見送っていた里親研修の受け入れや、コスト削減のための計画の作成着手など、昨年度において未達成だった事項の改善が図られている。引き続き、関係機関との連携および事故防止について徹底していただきたい。